

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

小中の部

令和三年度八月 入賞句一覧 投句数 千二百九句



特選

遠藤 幹郎 選

ドンドンと太鼓がひびく夏祭り

京都府木津川市 大江 春暉（小四）

「ドンドンと太鼓がひびく」がいいですね。今日は、年に一度の夏祭りの日。祭りの幟を立てたお宮さんから、境内に持ち込まれた太鼓を叩く「ドンドン」と威勢のいい音が、村中にひびいて来る。ドンドンと太鼓の音をそのまま使ったところが、この句を引きたてています。

通学路見わたすかぎり青田道

大垣市 川合 ひより（小五）

「見わたすかぎり青田道」がいいですね。田植えがすんだ田んぼの稲もぐんぐん成長して青々と育つて来た。そんな青田を分けるように、通学路が学校へと続いている。作者は、こんな青田の中の道をみんなと通学しているのですね。農村でなくては見られない田園風景を生き生きと詠み上げています。

ミニトマトみんなかたまりなかよしだ

大垣市 大はし りお（小二）

トマトは、夏野菜で七月頃が出盛りで、小ささまざま、色も赤黄、紅等さまざまあります。その中でも、ミニトマトは、一ところに小さな実がかたまつてなるのが特徴です。その様子を作者は、「みんなかたまりなかよしだ」と、詠み上げました。このとらえ方に、作者らしさがよく出た楽しい一句です。

秀逸

麦茶飲むのどがうるおう夏の味

大垣市 川添 遥紀（小六）

青葉道こちよいい風ふいてくる

大垣市 北村 日依梨（小六）

ひびいてる水門川にたきの音

大垣市 近藤 ゆの（小六）

あめんぼが音一つなくすいすいと

大垣市 安田 嵩生（小六）

わかばゆれかわのみなもゆれている

大垣市 杉山 晃煌（小六）

バスの中なごりおしくて夏の夕

大垣市 杉原 希菜子（小六）

夏の日が僕らをこがすガラガラと

大垣市 大倉 真世（小六）

梅雨明ける雲一つない青い空

大垣市 三浦 心愛（小六）

ジリジリと暑さで焼ける肌の色

加茂郡川辺町 田原 真衣（中一）

青き空大きな魚群いわし雲

加茂郡川辺町 馬場 貴大（中一）

入選

暑い日に麦茶をごくごく生きかえる

大垣市

吉位 宗真（小六）

夏木立川灯台と背比べ

大垣市

西脇 達彦（小六）

ゆるやかな水門川の音を聞く

大垣市

宮島 新（小六）

せみの声力強くひびいてる

大垣市

井上 莉子（小六）

麦茶飲むあつく燃えてるぼくのど

大垣市

市原 光（小六）

雨あがり水面かがやく夏の川

大垣市

岩田 紗季（小六）

自転車で青葉の下をかけぬける

大垣市

大島 礼乃（小六）

カラフルなあじさいたちが一列に

大垣市

川合 那保（小五）

川の上青葉のかげがゆれている

大垣市

和田 蒼平（小六）

つゆはれま昼飯古墳の歴史知る

大垣市

高橋 明日実（小六）

青葉風友のかみの毛ゆらしくて

大垣市

大岩 さくら（小六）

もやいぶね青葉のうつる川にうく

大垣市

袴田 信佳（小六）

墳頂にこちよくふくあおばかぜ

大垣市

日比野 美祐（小六）

朝焼けのラジオ体操起こされる

大垣市

鈴木 りのあ（小六）

のどかわき麦茶をのんで生きかえる

大垣市

石川 結月（小六）

夏の川ゆらりゆらりともやい船

大垣市

長谷川 澤菜（小六）

夏の空大塚古墳大きいな

大垣市

根本 留希那（小六）

ひさびさに暑中みまいを友達に

加茂郡川辺町

木下 瑛介（中二）

甲子園頂点目指し汗流す

加茂郡川辺町

堀江 冬柚（中二）

カエルさんはっぱのカサで雨やどり

大垣市

とみた まお（小二）

選者吟

風涼し風鐸ゆるる川灯台

幹郎



小中の部